

題名

ホツマ暦の解説書

素朴な疑問

古代日本は、いつから始まったのか

副題

秘伝の書

ホツマツタエに隠された、古代暦を解説する。

スス暦、アスス暦の計算（古代暦⇒太陽暦⇒西暦）

ホツマツタエ史学研究会 吉田六雄

ホツマツタエに見る「日本の新紀年」の年代**日本の新紀年（天神紀年）**

最新のホツマ暦、炭素 14 測定法の研究により日本の新紀年の起点は、天照御大神の誕生年である「紀元前 330 年」が妥当であることが判明した。そして、2023 年は紀元 2352 年になる。紀年とは、「ある紀元から数えた年数」のことである。

現「日本の紀年(皇紀)」

ホツマツタエの研究者の間では、日本の紀年に対し多々論じられている。2023 年は皇紀 2682 年。

新「日本の新紀年(天神紀年)」

そこで、筆者の吉田説を公開したいと思う。その計算方法は、自然科学に基づいた計算方法である。その結果、日本の新紀年が提案できれば幸甚である。計算手順の解説は、スス暦、スス暦+アスス暦、アスス暦、および日本書紀暦の順で説明したいと思う。なお、スス暦、アスス暦とも簡単に箇条書で説明できたと思うが、文系には少し難しいと思う、頑張って読んで頂けると幸甚です。

ホツマツタエ**I、スス暦****1、アマテル神(天照御大神)の誕生年**

ホツマツタエの 4 アヤ 24 に、天照御大神の生まれ年が鈴枝穂で記述されていた。

4-24 二十一鈴 百二十五枝 年キシエ 初日ほのぼの いずる時

2、一日

暦の基本は一日である。その一日が鈴枝穂で組み立てられているスス暦に、二通りの一日の穂の表示があった。

1日 16 穂

a、(4 アヤ)ソムホ(十六穂)居ますも ヒトヒ(一日)とぞ（紀元前 271 年以前）

1日 8 穂

b、(21 アヤ)アエよりヤエの 中五日（紀元前 270 年以後）

各々の文章の意味

ホツマ干支表で計算すると、
a 項は「16 穂の経過で 1 日」になる。
b 項は干支の○アエより○ヤエの中五日で「40 穂」の経過になり、5日で割り算すると、「8 穂の経過で 1 日」のことである。

要約すると、a 項「1 日 16 穂」、b 項「1 日 8 穂」で時を刻んでいた。そこで、1 穂を現在の時間に換算すると、1.5 時間、また、3 時間なる。

a 項-1 日 16 穂

式 24 時間 ÷ 16 穂 …… 1.5 時間

b 項-1 日 8 穂

式 24 時間 ÷ 8 穂 …… 3 時間

二つの時間の関係性

a、b 項の暦の関係性を調べる前に、普遍的な原則は「人の生命は今も昔も同じである。」そのため、a、b 項の時世を一致させると、3 時間を 1.5 時間に補正され、補正値は「1/2 倍」になる。元の b 項の暦法は、a 項に対し逆数の 2 倍の暦であった。

3. 天照御大神の誕生年を西暦に計算する。

スス暦、太陽暦、西暦の順で換算

スス暦

4-24 二十一鈴 百二十五枝 年キシエ 初日ほのぼの いずる時
スス暦の鈴枝穂を穂のみへ換算する。

式 21 鈴 × 60000 穂 + 125 枝 × 60 穂 + 31 穂。すると、穂の合計は 1,207,531 穂になる。

太陽暦

天照御大神の誕生穂を太陽暦に換算する。

式 1,207,531 穂 ÷ 16 穂 ÷ 365.2422 日。すると、約 207 年 7 月 17 日に計算される。

また、天照御大神は「初日ほのぼの」の 1 月 1 日に誕生している。そのため、7 月 17 日を 1 月 1 日になるように補正する。そのため、約 3189.704 穂を差し引くと 1 月 1 日が得られる。その時の穂は、約 1204341.296 穂になる。この穂の値が、207 年 1 月 1 日の穂である。

西暦

更に、天照御大神の誕生穂を西暦に換算する。

式 約 207 年 1 月 1 日 + (補正値 - 536 年) = - 329 年 1 月 1 日になる。

結果、天照御大神の誕生年は、西暦で紀元前 330 年 1 月 1 日に計算される。

4、スス暦の終焉

スス暦の初めは天照御大神の誕生になるが、終焉は「50 鈴 1000 枝 20 穂」になる。
 「50 鈴 1000 枝 20 穂」をそのまま直訳すると、51 鈴 20 穂になる。だが、困ったことに、51 鈴になる 式
 (51-1)鈴×60,000 穂の 3,000,000 穂は、スス暦の御世に記述されてない。アスス暦は 21 穂より始まる
 が、その記述はアスス暦の 50~51 穂の御世であった。抜粋すると、

- 28-109 天鈴五十穂 カンナ月
- 29- 9 光重ぬる 百七十九万 二千四百 七十穂経るまで
- 29- 12 天鈴キミエ(51穂)の 十月三日

そこで、「百七十九万二千四百七十穂」が 3,000,000 穂であることを説明すると、この「百七十九万二千
 四百七十穂」は、天照御大神の誕生年を起点に経過穂をカウントされていた。天照御大神の誕生穂は、
 先に記述していたが、「4-24 二十一鈴 百二十五枝 年キシエ 初日ほのぼの いずる時」である。
 この二つを穂に換算すると、

- 4-24 二十一鈴 百二十五枝 年キシエ(31 穂) は、1,207,531 穂
- 29-9 百七十九万二千四百七十穂は、1,792,470 穂である。
- 4-24 と 29-9 を合計すると、3,000,001 穂になる。

結論

鈴年に換算すると、式 3,000,001 穂÷60,000 穂は、50 鈴 1 穂に計算されるが、スス暦は、1 鈴 1 穂
 より始まった、51 鈴 1 穂に計算される。だが、スス暦の 51 鈴はスス暦の御世になく、アスス暦の御世に
 書かれていたが、アスス暦は 21 穂より始まるため、スス暦の終焉は 51 鈴でなく、50 鈴 20 穂であった。

5、スス暦のまとめ

☆スス暦年表 紀元前536年～紀元前152年 神代の年代

													作成 2022.11.5付		
													青色枠:一致、黄色枠:±1月、緑色枠:±2月		
NO	アヤ 番号	天神名	スス暦の 記述	月	日	エト NO	暦法	大暦数字	換算暦	天鈴暦 太陽年	補正值	西暦 年	月	日	暦法
			1鈴1穂			1	1倍暦	1		1	536	-535	5	14	
1	28-8	両神の婚姻	21鈴100枝			1	↑	1,206,001		206	536	-330	9	28	
2	4-24	ワカヒト誕生	21鈴125枝	1	1	31	↑	1,207,531		207	536	-329	1	1	
4	6-1	原見の新宮	21鈴126枝	3	1	58	↑	1,207,618		207	536	-329	1	7	大い暦穂 ↓ 1日16穂 ↓ 1日365日 12ヶ月
		(正)22鈴	22鈴126年	3	1	58	↑	1,267,618		217	536	-319	4	13	
6	6-22		22鈴505枝	3	15	10	↑	1,290,310		221	536	-315	3	1	
7	10-1	ヲホナムチ内宮	25鈴93枝			37	↑	1,445,617		247	536	-289	9	29	
10	19B-1	オシヒト天日嗣	25鈴130枝	1	1	58	↑	1,447,858		248	536	-289	2	17	
11	20-1	テルヒコ葦原治	26鈴16枝	3		41	↑	1,501,001		257	536	-279	3	20	
12	21-1	キヨヒト新治宮	26鈴17枝	3	1	23	↑	1,501,043		257	536	-279	3	23	
		2倍暦、初年	27鈴1穂				2倍暦	1,560,001	1倍暦	267	536	-269	4	25	
13	24-6		29鈴501枝	2	1	38	↑	1,710,098	↑	280	536	-256	2	18	大い暦穂 ↓ 2日16穂 ↓ 1日361日 12ヶ月
15	25-1	ワケイカツチ	32鈴23穂	4	1	23	↑	1,860,023	↑	292	536	-244	2	11	
16	26-1	ウツギネ天日嗣	36鈴34枝	3	15	38	↑	2,102,078	↑	313	536	-223	1	24	
17	27-22	ケキの神	42鈴805枝	8	4	9	↑	2,511,069	↑	348	536	-188	6	20	
18	27-41		49鈴901枝	1	3	1	↑	2,934,661	↑	384	536	-152	2	20	
19	28-1	スス暦の終焉	50鈴1000枝			20	↑	2,940,020	↑	385	536	-151	8	7	

II、アスス暦を西暦に計算する。

1、アスス暦

a、不思議なことにスス暦とアスス暦の御世を生きた臣が、ホツマツタエには記述されていた。

それは、六代大物主の 大三輪の臣のワニヒコである。そして、「百九十二齡ぞ」以上も長生きされていた。そのワニヒコは、スス暦とアスス暦の二つの御世に生きてられ、スス暦の世に 77 年、アスス暦の世に 115 年も生きられていた。

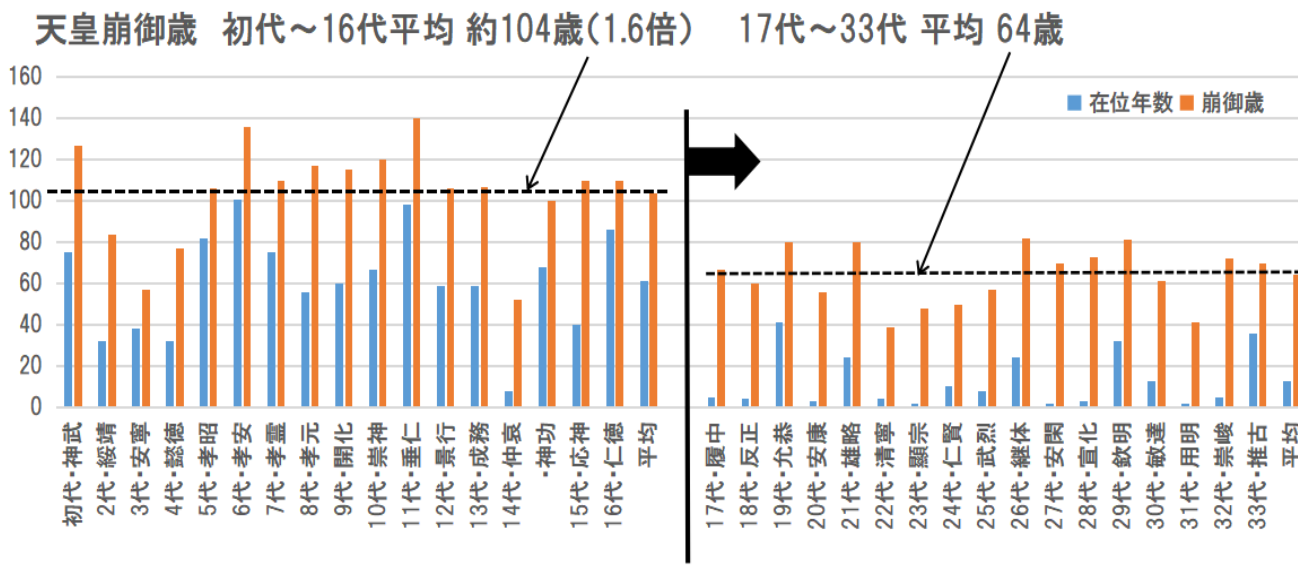
b、アスス暦に生きた天皇

神武天皇は 127 歳まで長生きされ、また、初代～16 代までの天皇の内、百歳以上が約 70%であった。現在の太陽暦、西暦では考えられない異常な高齢であった。

・薨御歳の比較

初代～33 代天皇の薨御歳を調べると、シナ(支那)暦の伝来により第17代履中天皇元年(399年)より天皇の崩御歳が大きく変化していた。そこで、平均の薨御歳を調べると、初代～16 代までは平均 104 歳年であった。それに対し 17 代～33 代までの天皇の平均は、64 歳であった。

アスス暦、日本書紀暦の表



・高齢になった原因

それまでの暦は天皇の薨御年が異常に高齢の太陰非太陽暦であった。これを称して学者は「紀年」と読んでいた。そこで日本書紀の経歴を調査すると、17 代履中天皇元年以前の 15 代応神天皇の御世に暦が渡来し太陰太陽暦が採用されていた。

だが、日本書紀にはどの天皇より採用されたかは不明であったが、だが、高齢の原因をスス暦～アスス暦に生きたワニヒコが教えてくれたように、天照御大神の御世の暦に対し2倍暦の暦が継続していた。そして、解消したのが、17 代履中天皇元年の 399 年以降であった。

2、アスス暦、日本書紀の16代天皇までは、2倍暦であった裏付け

a、不知火

そして、2倍暦を証明するように、景行天皇の御世に表れた不知火が、ホツマ、日本書紀では旧暦五朔に記述されていた。それに対し江戸時代～平成の御世に見られた不知火は旧暦の八朔である。三ヶ月もスれていた。

そこで、2倍暦から1倍暦に変換し再現すると、「先ず、5朔は旧暦のため、計算が楽な1年365.2422日の新暦に変換する。次に1/2暦に変換し、そこで、新暦を旧暦に戻すと、「元の旧暦5朔は旧暦の7月27日」に計算される。現在の不知火は旧暦8朔のため、7月27日とは4日違いの近似日が再現する。なお、不知火は前後1週間は見られると云われている。

b、ヤマトタケ

また、ヤマトタケは21ヶ月で生まれており、現在の10ヶ月と10日に対し2倍の孕み月で記述され、2倍暦を証明していた。

3、アスス暦の計算

アスス暦をスス暦に計算

アスス暦の16代までは、太陰非太陽暦のため、通常のようにも、1年365日で計算できない。そのために、アスス暦の年月日をスス暦の鈴枝穂の穂に換算し、その後、スス暦の1日8穂で計算し直すと、正常にアスス暦の経過年数を計算できるようだ。

a、太陽暦

神武天皇元年1月1日

アスス58穂1月1日の穂の計算

式 $(58 \text{ 穂} - 1 \text{ 穂}) \times 16 \text{ 穂} \times 365.2422 \text{ 日} + 1 \text{ 月} + 1 \text{ 日} \times 16 \text{ 穂}$ の経過日数は、333116.8864穂になる

b、スス暦に換算する。

a項で求めた穂の333116.8864穂は二倍暦のため、一倍暦に換算する。

式 $333116.8864 \times 16 \text{ 穂} / (16 \text{ 穂} \times 2 \text{ 倍})$ 。換算値は166558.4432穂になる。

c、西暦に変換する。

式 $166558.4432 \text{ 穂} / 16 \text{ 穂} / 365.2422 \text{ 日}$ 。年数は約28.50年になる。

式 約28.50年 + 補正值 - 160.5年 = -132年7月1日になる。

結果

神武天皇の元年は、西暦で紀元前133年7月1日に計算される。なお、「補正值 - 160.5年」は、後述するが、解説アスス暦、日本書紀暦よりの遡って求めた年代の補正值である。

4、アスス暦(含む日本書紀暦)のまとめ

☆アスス暦年表 紀元前151年～紀元399年 初期天皇の年代

NO.	アヤ番号	天皇名	書記御世	西暦換算	アスス暦	年	月	日	経過日数	暦法	天鈴暦太陽暦	暦法換算	換算値	西暦換算	月	日
	28-67				21穂	21	1	1	7305.844	2倍暦	11	1倍暦	161	-150	1	1
	29-12	神武東征			51穂	51	10	3	18539.042	↑	26	↑	161	-135	5	17
1	29-67	神武天皇	76	-659	58穂	58	1	1	20819.805	↑	29	↑	161	-132	7	1
		空白 3年	3	-583						↑		↑				
2	31-39	綏靖天皇	33	-580	134穂	134	1	1	48,578.21244	↑	67	↑	161	-94	7	1
3	31-61	安寧天皇	38	-547	170穂	170	7	3	61,911.55269	↑	85	↑	161	-76	10	2
4	31-74	懿徳天皇	34	-509	208穂	208	2	4	75,639.57200	↑	104	↑	161	-57	7	18
		空白 1年	1	-475						↑		↑				
5	31-83	孝昭天皇	83	-474	243穂	243	1	1	88,389.61211	↑	122	↑	161	-39	1	1
6	31-94	孝安天皇	102	-391	326穂	326	1	7	118,710.71460	↑	163	↑	160	3	7	4
7	32- 1	孝靈天皇	76	-289	428穂	428	1	12	155,970.41888	↑	214	↑	160	54	7	6
8	32-32	孝元天皇	57	-213	504穂	504	1	14	183,730.82599	↑	252	↑	160	92	7	8
9	32-48	開化天皇	60	-156	560穂	560	10	12	204,456.32077	↑	280	↑	160	120	11	22
10	33- 1	崇神天皇	68	-96	621穂	622	1	1	226,816.40544	↑	311	↑	160	151	7	1
11	35- 1	垂仁天皇	99	-28	689穂	689	1	1	251,287.63276	↑	345	↑	160	185	1	1
12	38- 1	景行天皇	60	71	788穂	788	7	11	287,639.23154	↑	394	↑	160	234	10	6
	40-98	ホツマ終焉			843穂	843	1	1	307,534.93137	↑	422	↑	160	262	1	1
13	書紀	成務天皇	60	131		848	11	8	309,672.51087	↑	424	↑	160	264	12	5
14	↑	仲哀天皇	9	191		908	6	12	331,438.85854	↑	454	↑	160	294	9	22
	↑	神功皇后	69	200		918	2	7	334,964.53313	↑	459	↑	160	299	7	19
15	↑	応神天皇	41	269		987	4	18	360,238.11855	↑	494	↑	160	334	2	25
	↑	空白 2年	2	310						↑		↑				
16	↑	仁徳天皇	87	312		1028	2	16	375,150.17500	↑	514	↑	160	354	7	24
17	↑	履中天皇	6	399		1117	1	17	407,627.29384	1倍暦	559	↑	160	399	1	9

歴史博物館資料との対比

Ⅲ、ホツマツタエ ゾロ(イネ)の記述年代と炭素 14 測定年代

1、ゾロ(イネ)の記述年代

当解読式では、「ゾロ(イネ)のみの記述の推定年代を「紀元前 330 年～紀元前 320 年」、および、「イネの記述の推定年代を「紀元前 290 年」と算出した。

ホツマツタエより抜粋

5-12

① 𠩺 卒 𠩺 𠩺 𠩺
 𠩺 ① 卒 卒 卒
 𠩺 卒 卒 卒
 𠩺 卒 卒 卒

5-12

カクツチト ハニヤスガウム
 ワカムスピ クビハコクワニ
 ホソハゾロ コレウケミタマ
 イサナミハ アリマニオサム

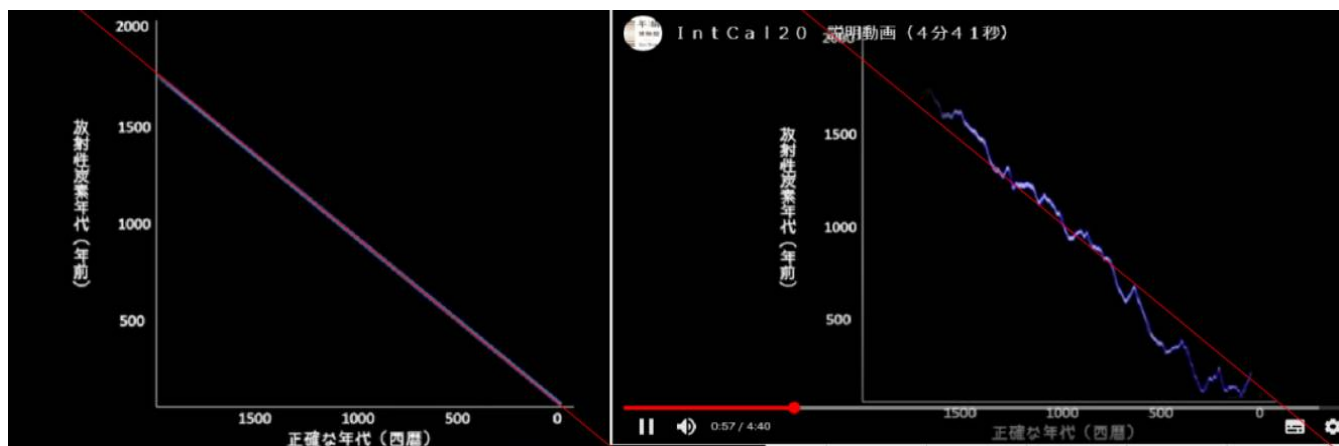
スス暦、アヤ、内容、西暦換算の表(吉田説)

大きい暦数	ホツマ 文	スス暦、内容	西暦に変換
1,207,531	四文、二十四	二十一鈴 百二十五枝 年キシエ 初日	-329
	五文、十二	ホソハゾロ	
1,290,301	六文、十四	二十二鈴 五百五枝初に	-319

2、炭素 14 年代測定法

下図は、炭素の半減期の理論と実測値の一致を証明したグラフになる。

(Web の intcal 20 より引用加工し掲載した。)



「AMS－炭素 14 年代測定法」で求めた稲作伝来の地位と年代「表」

番	地域、地区	稲作の開始年代	
		紀元前 900～800 年	中央値DC850 年よりの伝来年の推定値
1	・九州北部の弥生時代遺跡から出土した、土器に付着する炭化物（コメのおこげ）や木杭	紀元前 900～800 年	中央値DC850 年よりの伝来年の推定値
2	瀬戸内海西部地域までに広がるのに要した年	約 200 年	(紀元前 650 年)
3	摂津・河内までで	300 年	(紀元前 550 年)
4	奈良盆地までで	400 年	(紀元前 450 年)
5	中部地方には	500 年	(紀元前 350 年)
6	南関東には	600～700 年	(紀元前 250 年)
7	東北北部には	500 年	(紀元前 350 年)

結果

上表のように、ホツマツタエの稲作に関する記載の対象地区の東北(日高見)、関東(新治)について、炭素 14 年代測定法で稲作の開始年代を測定した結果、紀元前 350 年～紀元前 250 年であった。

ホツマツタエ文献年代と科学的な年代の比較

判定

スス暦の御世に記述された「ゾロ(稲)の記載年代は紀元前 330 年～290 年(約紀元前 310 年)より古い」である。それに対し「国立歴史博物館が炭素 14 測定で求めた稲の開始時期は紀元前 350 年～紀元前 250 年であった。」このことより、奇しくも「イネの年代比較」より、スス暦、アスス暦、日本書紀暦の解読式より求めた新年代が正しかったことが証明された。

判定結果「○」

(注記)

「炭素 14 年代測定法」の記載は、国立歴史民俗博物館より使用許可を頂いております。

IV、紀年と新紀年の年代曲線の比較

1、ホツマツタエ暦の証明

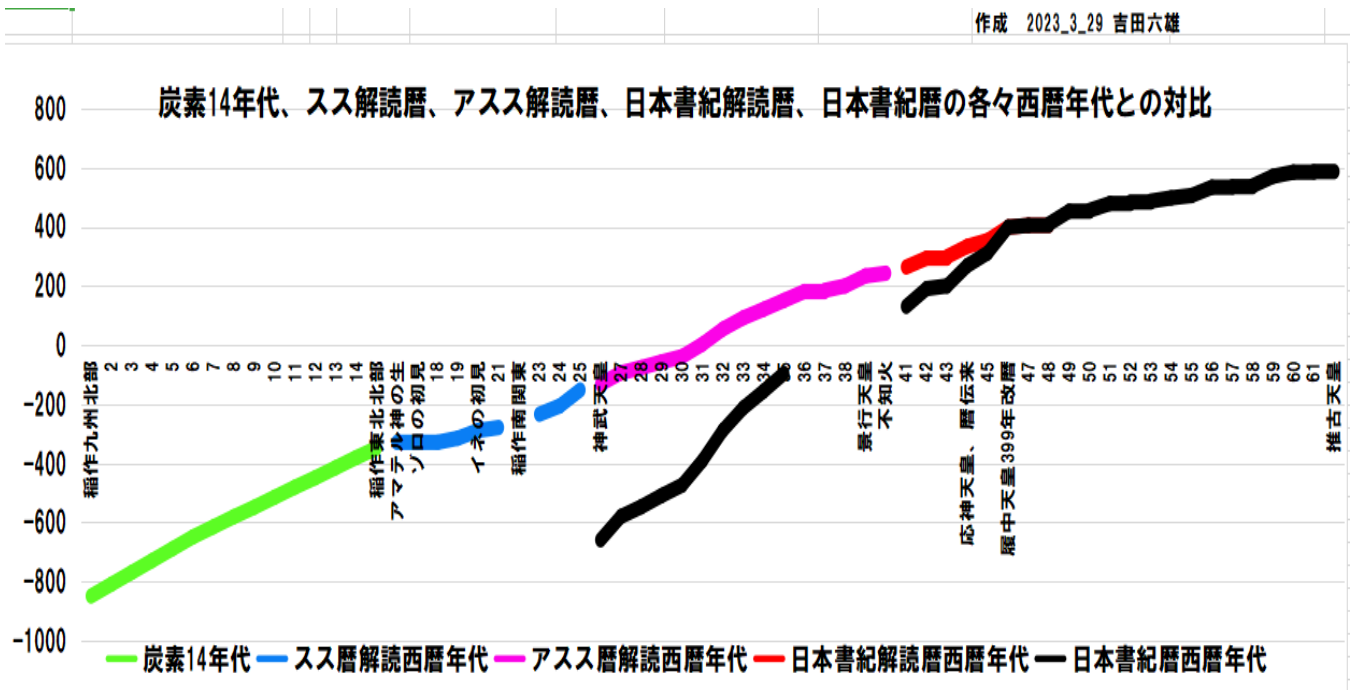
スス暦、アスス暦、日本書紀(紀年)の新解読年代で、日本の紀元年が証明される。併せて、炭素14年代測定法で求めた稲作の開始年代も記載した。

解説

下グラフの右上の黒線は、日本書紀暦(前半は紀年)の線である。特に、1代~15代の天皇の直線部が紀年と云われ急激に立っている。原因は、1代当たりの在位年数が長いための折れ線グラフである。それに対し解読されたグラフの左側からイネの初見が記述されるスス暦(青線)、不知火が記述されるアスス暦(桃色)、日本書紀暦(赤線)の年代線は、滑らかに右肩上がりのグラフになっている。その結果、1代当たりの平均在位年数が約30年前後と近代に近い。九州の太宰府天満宮の宮司39代の平均在位年数が約28年であったと云われている。

グラフ

Y(縦)軸、初見・即位年代



2、スス暦、アスス暦と考古学年代の対比

ホツマツタエのスス暦、アスス暦は、縄文、弥生、および、古墳時代に該当した。

縄文時代			弥生時代							古墳時代	
縄文晩期			早期	前期	中期		後期	終末	前期		
前 700	前 600	前 500	前 400	前 300	前 200	前 100	0	100	200	300	400
スス暦以前		スス暦の御世				アスス暦の御世					
前 536 年			前 151 年				262 年				

V、ホツマツタエ 用語

スス暦と太陽暦の関係

1 鈴は、西暦で約 10.3 年(紀元前 271 年以前)、約 20.5 年(紀元前 270 年以降)となる。

1 枝は、西暦で約 0.01 年(紀元前 271 年以前)、約 0.002 年(紀元前 270 年以降)となる。

要約すると、約 3.7 日と約 7.5 日になる。

1 穂は、西暦で約 0.00017 年(紀元前 271 年以前)、約 0.00034 年(紀元前 270 年以降)となる。

要約すると、約 1.5 時間と約 3.0 時間になる。

なお、紀元前 270 年以降は 2 倍暦になっているため、紀元前 271 年以前と同じ時間の尺度とするため、2 分 1 する必要がある。前述の新紀年は、この方法で年代を求めたものである。

ホ(穂)とは、

ホツマツタエ文は五七調で書かれ、二文字の場合は「トシ(年)」、また、一文字の場合は「ホ(穂)」で記述されている。意味は、ホツマ干支表の 60 分の 1 を穂と称する。そのため、太陽暦の年とは違う。だが、アスス暦で神武天皇元年が 58 穂と記述されているため、現在の年と同意語と思われるため、アスス暦、日本書紀暦の解読ができずにいる。

スス暦の年齢の証明

(紀元前 271 年以前)

天照御大神も年老いて、長子のオシヒト(忍仁)に位を譲られた。(天日嗣)

その年は「二十五万年 天日嗣 皇子のオシヒト 譲り受け」と記述されている。この年に天照御大神の歳は 約 42.8 歳であった。その後、オシヒトは 51 年も御世を治められたと云う。

(おわり)

```
<!--shinobi1--><script type="text/javascript"
src="//xa.shinobi.jp/ufo/191435900"></script><noscript><a
href="//xa.shinobi.jp/bin/gg?191435900" target="_blank"></a><br><span style="font-size:9px"> </span></noscript><!--shinobi2-->
```